

柳川郷土研究会
会誌「水郷」付録

すいきょう

瓦版

発行所 柳川郷土研究会
柳川市本城町113-1
発行人 武松 豊



旧柳河藩時代の 柳河街道(田中往還)跡

慶應五年(一八〇〇)、秩父久米となった田中藩政は柳河郷を
中心として政治、軍事目的のため郷内の交通の要衝をはかつた。
この柳河街道は、久留木藩政での工程五里(約20K)、
細田(兩位約35M)で、道路の幅を狭くして通りやすくし、
矢張りから南へ行くことになり、左に曲がりながら井出の橋に到り、
防犯のため道路の高さを低くしたり、道幅を狭くして、
通りにくくしている。

なお、向かい側の地蔵は徳川三浦ノートル所にあつた河野
如閑で彫刻した人々を供養するものである。

平成十五年三月
三浦町教育委員会

土竜(もぐら)の囁き

郵政問題から端を発した総選挙で予想外の与党大勝利。国民は信念を通す政治家を望んだ証拠であろう。郵政問題に反対する自民党議員は公認されず、公認の新人等がその選挙区に現れた。マスコミは刺客が送られたと呼んだが刺客とは不認識の言葉である。郵政民営化は前回の総選挙で自民党が公約としたもので、名の知れた議員でも反対すれば賛成する人が自民党公認として出馬し、選挙民に賛否を問うのは当然であろう。結果は賛成派の圧倒的勝利。のうのう政治が終わり告げた。小選挙区制は数少ない公約を掲げて各政党が国民に判断を委ねるのである。今、自民党が勝ちすぎて驕り高ぶれば次回の選挙でその反動がくる。国民が望んでいるのは国・地方を通しての行政費の縮減である。政治家の中には増税論者もいると思うがけしからん。一番それを知っているのが小泉総理のようだ。国民の前に行政費の減少を見せた上に、尚、金も納得すると思う。政治の動向を見守りたい。(土竜)